

## contents

月は夜空に	*3
無害の証明	*4
僕になくて君にあるアドバンテージ	*5
寝入った後に	*6
医原病	*7
焦燥	*8
そんな風に	*10
本当は怖いクール・ジャパン	*11
美術館	*12
去る正月に	*13
季節の変わり目	*14
アンチテーゼ	*16
反省の効用	*17
疲れちゃった	*18
酔わな酔わない	*19



## 月は夜空に

中秋の名月を見たかい？

中傷の政局なら見た

傷心の民衆も見た

哄笑の首脳部も見た

妄執の亡霊も見た

見たは十五のお月様

昨日の月は……丸かったなあ

## 無害の証明

無害の証明を求められて  
No, I don't have a gun.  
ということを見せるために  
全裸になった少年が  
次の日に見たのは  
病院の狭い白い部屋

いささか物理的に過ぎたか  
今、青年はもっと精妙な仕方で  
無害の証明をしている

しかし平和な社会は  
信用を基に築かれるのだ  
今のように  
隣人を見たら犯罪者だと思え  
っていうんじゃない

ダメなんだぜ？

## 僕になくて君にあるアドバンテージ

は何かと考える  
僕は追われる者だった  
君らは追う者だった

追う者のほうが目標がある分強い  
それはある  
僕というのは目標にしてはならない個人ではあるが

僕には愛がなかった  
君らは愛していた

僕に愛がなかったかは知らねど  
恋歌を綴る味わいは他人に一日の長がある

僕はね、あなた方の気持ちというものが  
痛いほどわかるような気もするのですが  
わかったら死んでしまうやうな気がして  
とりあえず横に置くことにしてたのです

寝入った後に

月食の欠けていく様恋のよう眠りを妨げ影落ちていく

だから君あれほど私怨で歌を詠むなんてことしちゃいけないとかや

立ち直る術の糸ほどつかめない雪にも負けて陽ざしに甘え

## 医原病

憂鬱で死にそうです

ハッピーになれるお薬持ってるって？

どう見てもドラッグです、ありがとうございました

断薬したら三十キロ体重が減っちゃったって？

どう見てもヤク切れです、ありがとうございました

具体的に話をしよう

まず医者に黙って断薬すればその間も通院はしているということだから  
診察時、嘘をついているという負い目を背負うことになる

そのうえで薬で弛緩されていた神経がとがり

筋肉はこわばり夜眠れなくなる

するとフラッシュバックが起こる危険がある

一番いいのは医者が公式のルートで薬の危険性を認め

起こりうる抵抗を踏まえたうえで段階を追って減らしていくことだろう  
ともかく薬の消費量が異常なのだ

焦燥

日が暮れて

憂鬱な

泣き出しそうな

さなぎの群れが

ああ また傷つけてしまったと

飲むことにより

苛まれるなら

最後にしらふに

大悟もせんか

庭に庭師がいる間くらいは





## そんな風に

書くことが  
告白となり  
こだまする

人の口に  
戸が立てられて  
そんなことが  
あるんですか

なびく風にも  
吹けば飛ぶ  
うつろな人の  
胸のまにまに

## 本当は怖いクール・ジャパン

常識的に考えてみてください

僕のような働き盛りの人間が

有能な、社会の担い手となる人間が

無力化させられお家でくすぶっている状態で

世の中がうまく回るわけないでしょう

もう知らないわけでもないだろうから

もっと言うなら

拉致・監禁・拷問を認めるってことと

大人になるってことは

何も関係のないことなんだよ

多すぎたか、いやいやまだ

## 美術館

美術部の課外授業でフェルメール展に行く

入り口で点呼を取り各々好きに見て回り解散という流れ

一人の学生がとてもゆっくりとした足取りで

丁寧に絵を見て回る

絵画の技法に詳しいわけでもない

見えないものが見たいの～という感じで

穴が開くほど突っ立って凝視している

姿を見て引率の先生が苦笑して言う

「そんなに見てても何もないでよ笑」

というようなことが今もあるのだろうか

先日放送された紅の豚を穴が開くほど細かく見る

ツイッタ民を見て思うのであった

しかしきれいなものはセンスとして残る

それがいい

去る正月に

ええねんで。せやかて工藤！ええねんで

信仰はかつて宗教。今科学

動悸する？僕の体と同期して

二十歳過ぎ振り返るほど何もない

ああ酒が酒が飲みたし飲めぬ今

俗人の二言目には働けと

幸せは広大無辺でもよろし

せめて寝る。寝る時間だけ確保して

海行かぬ。行かない者のあこがれで

山行かぬ。遠景景観愛でている

外行かぬ。不穏なニュースしかなしで

違う時刻<sup>きざ</sup>み生き行け獣たち

## 季節の変わり目

時の涙が  
気体になって  
空に昇って  
初夏になり

まだしょんぼりと  
してますか

改悛など野暮  
信心もなし  
そのまま行けよ  
分かれ道

冷静な 過月の月も 笑っているよ



## アンチテーゼ

他人からどう見られるか気にするなっていうんです  
君の人生は君のものだと

ありのまま振舞えばよいと  
勇気づけてくれるのです

しかし実際はありのまま振舞えば  
禁猟区から出た獣のように  
一瞬で屠られてしまう社会です

僕の人生は僕のものではない  
そんな気がして

そんな危険を見せつけられて  
誰が自由に振舞えましょう

ええ、僕らは電車に乗っていても街を歩いていても  
即座にその場で泣き崩れたい

まあいい  
形から入ろう

他から見て普通に映っていれば  
普通の人ですよ



## 反省の効用

反省が将来の行動に関して

なんの有効性もない場合がある

なんとなれば将来同じ暴虐を繰り返すための

口実になっている場合がある

私なんてほんとに嫌な奴だったし

と言った時、君は過去の自分に対して

他人になってしまうのだ

現在進行形で嫌な奴だろうが～というツッコミは

受け付けないその姿勢

こうなれば僕らにできるのは

自分が嫌な奴だということを受け入れることのみだ

さすれば少しは嫌具合も制御できよう

つきましてはまた乾杯したく……

やめておこうか

疲れちゃった

毎日嫌韓ヘイト報道けっこう  
ほっときましょ、それが彼らのしたいことなんだからさ

毎週市民エネミー選定リンチけっこう  
ほっときましょ、それが彼らのしたいことなんだからさ

そんなことが、したかったのか……

疲れた脳が考えることをやめようとする

動物癒し動画けっこう  
にゃーん

そうして僕らは、考えることをやめた

人間は考える葦であるから遠ざかること 4 万フィート

大丈夫なんでしょうか  
もうダメかもわからんね

というときりもみ状になって落下していく  
歴史の底に

酔わな酔わない

眠れ蒸れないウメッシュ

いずれ灰塵泣いても

いてもなくてもその人

傍に気づかれないだろう

それは間違い君の

命なければ世界も

政界も生活も

回転を止める

焦燥



2019 年 10 月 30 日初版発行

著 者 多田 龍介

発行者 多田千津子

発行所 明 水 工 房

©Ryusuke Tada 2019